

社高生のみんなへ

今日は27日（月）、穏やかな良い天気です。休校となって1週間が経ちました。いつもなら748人の活動による活気にあふれた校内のはずですが、シーンとして寂しいものです。やはり君たちがいなければ学校ではありません。早く以前のような学校に戻って欲しいと願うばかりです。

さて、報道されたように、今年のインターハイが中止になりました。何とも残念なことです。特に3年生にとっては、この状況からするとやむを得ないことと頭では理解しつつも、簡単には受け入れがたい話だと思います。全国高体連会長さんは、「この中止は、みなさんの夢を奪うものではなく、安全・安心や命を守るため」と話されました。苦渋の決断であったように思います。

ここで、1学期の始業式（1年生はまだいませんでした）で話したことをもう一度伝えたいと思います。2，3年生の人、覚えていますか？

《1学期始業式 校長講和一部抜粋》

「今を受け入れ、今を越える」

これは土田和歌子さんという方の言葉です。高校時代の交通事故で脊髄損傷となり車いす生活となりました。そこからパラスポーツの世界に入った方です。

「今を受け入れ、今を越える」

とてもシンプルな言葉ですが、その時の現状を受け入れて、未来志向で前向きに乗り越えようとする力強い言葉です。

私たちは、先ほど話したように、先の見えない状況になっていますが、この現実を変えようもなく、受け入れなければなりません。そして、この現状を乗り越えなければなりません。

君たちの高校2年生、3年生という日々・時間は確実に過ぎていきます。どんな状況になっても、高校生としてやるべきことはやらなくてはなりません。前を向き、粛々と勉強・部活動等をやっていきましょう。それが社高生の姿だと思います。この1年頑張りましょう。

この時点では、休校ではなかったのですが、様々な教育活動が制限されると予測されましたので、このような話をしました。残念ながら、今は臨時休校となり、学校での勉強・部活動はできなくなり、また、インターハイも中止になり、さらなる制限を余儀なくされています。今大切なことは、感染症にうつらない、そして、人にうつさないこと。国民一人ひとりに求められていることです。でも、やっぱり時は止まってくれず、過ぎていきます。学校に登校できなくても、社高生としてやるべきことはやらなければなりません。どうか、今を受け入れ、今を越えるべく主体的な自宅生活に取り組んで欲しいと思います。与えられた課題のみならず、自ら求める学びを期待しています。そして、ストレッチ・筋トレ、声出し・音出し等自分に必要なことはやらなければなりません。また、空いた時間にはぜひ読書をし、ものの考え方や知識等をインプットしてください。ものは考えようで、こんなに時間がある時だからこそ、将来の進学や就職時における1人暮らしのための料理に挑戦などでもいいのではないかと思います。

「今を受け入れ、今を越える」 みんなが今を越えられるよう、大社高校の教職員は全力でみなさんを支えていきます。